

サッカーのゴールキーパーにおけるファインセーブの特徴

片山 翼 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 山田 庸

キーワード：セービング、ポジショニング、状態の良さ

1. 諸言

近年、ゴールキーパーの活躍が着目されている。客観的にみて素晴らしいゴールキーパーであると判断できる要因は、シュートストップにおけるファインセーブである。また、素晴らしいシュートをとめることだけがファインセーブではなく、相手の裏パスへの対処など場面は様々である。ノイアーやオチョアなどの世界のゴールキーパーがなぜファインセーブをできるのかというと「状態の良さ」である。これはサッカー日本代表の前 GK コーチのマウリツィオ・グイド氏も「GK にとって一番重要なこと」と発言している (日本サッカー協会, 2014)。また、ドイツサッカー協会でも基本の構えが重要であると発言している (グライバー・フライス, 2005)。

サッカーのゴールキーパーに関する研究は数多くみられる (平嶋ほか, 2014) もの、最新の大会におけるゴールキーパーのパフォーマンス分析を行った研究は見られない。

本研究では、2014 年ワールドカップブラジル大会で見せた超一流の選手たちのファインセーブにはどのような要因があるかを明らかにすることを目的とした。

2. 調査方法

対 象：2014 年ワールドカップブラジル大会 決勝トーナメントにおけるノイアーとオチョアのセービングのプレー106プレーとする。

調査方法：録画されたテレビ放映動画を用いたパフォーマンス分析を行う。著者自身が、各プレーの要因の正否を判定した。

調査項目：①ポジショニングの項目、②状態の良さの項目、③反応時間の項目

3. 結果

図 1 は、オチョアが今大会でみせたファインセーブの全 9 プレーの特徴を示している。しかし、ファインセーブで良い評価であるはずの項目でも特徴を満たしていないものが多く目立った。なお、

今大会のオチョアについてクロスでのファインセーブは見られなかった。

4. 結論

- 1) ゴールキーパーのファインセーブには、以下の状態の良さの要因が関係している。
「かかどが浮いている」「膝が曲がっている」「ボールキック時に静止できている」「腰より上が曲がっている (前かがみである)」「体の重心が真ん中に来ている」「胸を張っている (背筋が伸びている)」
- 2) ゴールキーパーのファインセーブには、ポジショニングの要因が関係している。
- 3) ゴールキーパーのファインセーブには、反応の良さの要因が関係している。

引用・参考文献

- 平嶋祐輔, 中山雅雄, 内藤清志, 浅井武 (2014) サッカーにおけるゴールキーパーのシュートストップ難易度の定量化. 体育学研究. 59: 805-816.
- 日本サッカー協会 (2014) 対談 日本の GK 育成への示唆. technical news. 63: 4-8.
- ペーター・グライバー, ロバート・フライス (2005) サッカーのゴールキーパー育成法. 大修館書店: 東京. pp. 38-39.

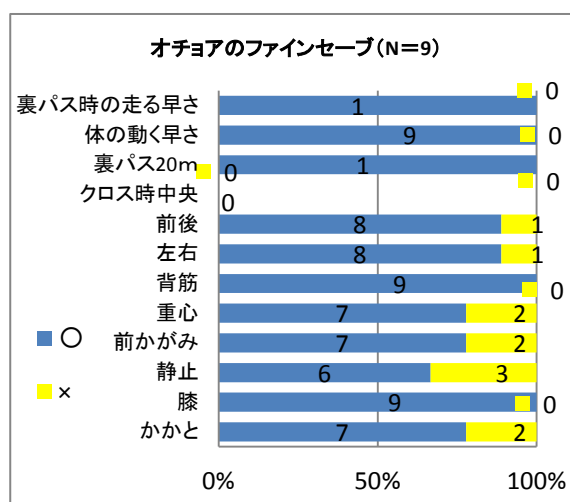


図 1 オチョアのファインセーブ (N=9)